

普及活動情勢報告（平成27年8月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

とさし旬物クラブ6次産業化の取り組み ～販売額アップをめざして活動開始～



弁当作りにも取り組む旬物クラブ

とさし旬物クラブは、学校給食への食材供給に取り組んでおり、2年前からは「焼肉のたれ」を製造し、土佐市のドラゴン広場で販売しています。また、ドラゴン広場で月1回程度、数量限定で弁当の販売を行うことになり、弁当に「焼肉のたれ」を使用し、PRも兼ねています。しかし、商品のブラッシュアップや販路の拡大が課題となっています。このため、農業改良普及課は6次産業化支援チームでの取り組みを勧め、7月30日の第1回目のチーム会において、今後の取り組みについて検討し、商品デザインの改良と売り上げ目標が決まりました。

農業改良普及課は、今後も引き続き、商品の完成、販路拡大、販売額増加の目標達成に向け、関係機関とともに支援します。

営農指導時の津波対策への備えと燃油タンク対策の推進 ～防災研修会を実施～



防災に関する講演会の様子

土佐市では海岸線に近いところに施設園芸地帯があり、日頃の農家営農指導時に地震に遭った場合の津波からの避難方法が心配されていました。そこで、同じ悩みを抱えているJAとさし営農指導課にも呼びかけ、8月5日に市の防災担当課から、防災計画や実際の高台への避難場所等について講演してもらいました。当日は農業改良普及課、JAとさし営農指導課の職員14名が参加し、避難経路等も確認できました。その後、3機関で燃油タンク対策についての協議も行い、地域の防災プログラムやハザードマップ等を協力して作成していく体制が整いました。

JAとさし北原支所花き部会 ～ソリダスター現地検討会～



現地検討会の様子

8月6日にJAとさし北原支所花き部会では、ソリダスターの現地検討会を開催しました。

部会員13名のうち11名が出席して育苗期以降の栽培技術の検討を行いました。本年度は、7月まで雨が続いたことで苗の確保は順調であったものの、定植時期により生育不良が見られ、その対応、また、ハダニなど害虫の対策についても熱心に検討がされました。農業改良普及課とJAとさし営農課からは、パーライトに替わる挿し芽床の種類と発根促進剤の試験結果を報告しました。

今後も農業改良普及課は、品質向上と収量増加のために現地検討会や実証ほの設置を通して部会を支援します。

土佐市環境保全型農業技術研究会設立
～「環境保全型農業直接支払交付金」制度変更説明会開催しました～



直接支払交付金制度変更説明会

土佐市では、16名のピーマン、シシトウ生産者が土着天敵温存ハウスの取り組みを行い、「環境保全型農業直接支払交付金」を受けてきましたが、平成27年度から「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」の中に位置付けられることになりました。申請には個人ではなく複数の農業者で構成される任意組織が必要となる等大きな制度変更を伴うため、8月10日に説明会を開き、「土佐市環境保全型農業技術研究会」が設立されました。

農業改良普及課は、新たに要件として加えられた「自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施を推進するための活動」に対して、現地検討会や実証ほの設置を通して支援していきます。